

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第130号



ビルマは仏教の国

アジアの笑顔にまなぶ

写真家 長谷川 友子

「ロヒンギヤ」という言葉を初めて聞いたのは2005年頃だったと思う。ビルマ（現ミャンマー）の西方のラカイン州に住む、少数民族。タイの西側のビルマ国境沿いのメソットに、たくさんの中間難民が軍から逃れてきていた。そこでは難民同士が助け合うためのグループがあり、そのメンバーの1人がロヒンギヤであった。

ビルマは1988年の民主化デモで、デモ参加者に軍が発砲し死者がでた。その後、多くの民主活動家は、拘束を恐れ国外に逃れたり、山に逃げたため、少数民族の村にも軍が入り込み、性暴力や地雷を埋めたりしたために村人達は、メソットに逃れた。

2015年にアウンサンスー氏が率いる国民党同盟が選挙で圧勝し、やっと民主化に動き始めたばかり。

昨年の8月に、「ロヒンギヤ武装勢力とビルマ維持軍の衝突でロヒンギヤ6700人を殺害、内730人が5歳未満の子供」（中日新聞2017・12・15）とある。

(次頁へ)

そして60万人以上の人人が隣国バングラデイッシュに難民となつて逃れた。ある時、日本で民主化活動をしてきたビルマ人に、ロヒンギヤの難民問題を口にした時、『彼らはビルマ人ではないから』と即答。

ビルマ難民の中に民主化活動と一緒に戦っていたロヒンギヤがいた事を知っている私はとても複雑な気持ちであった。共通の敵でなくなつたら、あなた達のことは知らないと……？ ビルマは国民の80%が仏教徒であり、ロヒンギヤはイスラム教徒である。そして長い歴史の中で周りの大団に翻弄され、自國を持たない民とされている。



バングラデイッシュはイスラムの国

世界平和へのタマネギ

12月の朝、突然入った友人の訃報。

歳はきっと同じくらいの歌うたい、木こりの旦那さんとの間に2人の子ども。今日いっぱいは自宅で家族と過ごして明日の昼には火葬されるらしい。ちょうど名古屋への配達の日でその後暗くなつてから小原村へ向かつた。配達中、彼女のCDを聴きながら色々考えてもやもやの繰り返しだつたが、長久手を抜けたあたりから歌が体に馴染んできた。

雑記 ごまめの歯ぎしり

もう少しのところで道を間違えたが何とかたどり着いた。暗がりの中数件周りに家が見えるが、一軒だけ焚き火が見えるお家があった。彼女の歌も聞こえ、なんとかお祭りかパーティーのよう。外は火を囲んでまつたり、中は子どもたちも走り回つて宴会、その奥の部屋に彼女と旦那さんと数人友人が入れ替わり立ち替わり会いに来ていた。

「昨日は彼女の誕生日で、すつごい楽しみにしてたライブがあつて、憧れの人とステージに立てるつて」「珍しく僕と子どもたちをちゃんと見送つて一人で車で出て、ほんとここから5分くらいのどこで対向車と……」と、彼は語り、「きっと昨日はこいつ幸せの絶頂で逝つたんだよ」「昨日、事故で僕はこんなに大きな悲しみを食らつたんだけど、世界にも沢山いろんな形でこういう悲しみを受けてる人がいるなら、戦争とかそういうのはない世界にしたい。きっとこそ一番強く願つてるよ。」僕もそう思う、し、そうしたい。

むずかしいことなんだろうけど。でも今僕がやつていることの先にはきっとそんな世界も待つてゐるのだろうと思い、今日も僕はタマネギを植える。目標の半分くらいいは植えただろうか。

最近思つこと

生活支援部の管理職員の22名より、

生活や仕事をする中で、感じていることや考えていることを綴りました。

◇ 生活支援部 榊原芳典 ◇

先日、町内会の清掃活動に初めて参加した。

参加者のはほとんどは、ちょうど父や母と同年代の人達だった。

新参者の自分にも「榊原さん」と声をかけてくれる。『新参者』という言い方は正確ではないかもしれない。これまでも、両親の名前で町内会に「榊原」という家族は存在していたのだから。しかし、それは『幽霊』のようなものだつ

た。2年前この町に戻り、町内に挨拶に伺つた際、自分の祖父母が亡くなつてから、近隣の人は榊原の家族と接点をもてなくなつたという話

を聞かされた。

両親は、身体に障害があり、そのことだけが理由ではないだろうが、あまり家から出ようとせず、周囲との接触を避けるように暮らししていた。

近隣の人から聞いた話では、障害があること

はわかつていたし、子どもを抱えてどうやつて暮らしているのだろうと気にはなつっていたが、どう聞わればいいかわからなかつたと何人もの人から話をされた。

自分たち家族は除け者にされている、子ども心にそう感じたこともあつたが、近隣の人たちは悪意のある人ではなかつたのだと感じた。近隣と両親の橋渡し役がいなかつただけだった。

それからは自分や妻が、町内の「榊原さん」

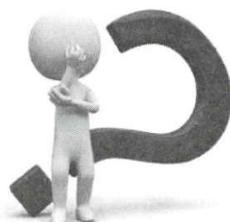
となつた。若いことは、それだけで目立つため、すぐに覚えてもらえた。年老いた両親を、今さ

ら町内会に引き連れていくことはしないが、30年前、そうした橋渡しをしてくれる人がいたら両親には違つ人生があつたかもしれない。

そんなことを考えながら神社の清掃を行つていたとき、ふと「免除」という言葉を思い出した。小さい頃、よく母が言つていた言葉だつた。

こういつた清掃活動やPTA活動、交通当番といつた役割は大体「免除」されていた。

幼い自分は「他の人がやらなくてはいけないことをやらなければいいのだから『得』してゐるんだろう」と考えて



いたが、今思つと、それは間違いだった。

◇ 生活支援部 溝口 愛 ◇

と気持ちがすっと楽にな

やらなくていい、来なくていいという「免除」は、その集団との付き合い方を学ぶ機会も失わせていたのではないだろうか。わからないから

余計に歩みよれない、その悪循環の中で両親は30年近く、地域との交流を絶っていた。

元々「免除」を提案してくださった人達は、

善意での申し出だったと思う。しかし、それを受ける側や周囲の意識に、なぜ免除が必要なのか、どうすれば一緒に参加できるかを追求する姿勢も必要だったのだと思う。

それはこの集団に限ったことではなく、社会の縮図でもある。それを専門的に解決していくために社会福祉に従事する者が必要となる。



生活支援部に異動して1年があつという間に過ぎました。エゼルに就職してから10年以上通所部で働いてきましたが、仲間や職員との関係

り、生活支援部でもがんばろう！と背中を押してもらいました。



性や活動をどう創つていいのか？など色々なことに行き詰つてしまい、環境を変えた

いと異動を希望しました。

自分から希望したもの、最初は新しい環境や今までと全く違う時間の使い方に慣れることができず、「ここでやれるんだろうか？」という不安がとても大きかったです。しかし、通所部の

仲間や親御さんからかけていただいた言葉が新しいことに向き合う力をくれました。今のウィルをがんばって創ってきたのは溝口さんだと

思つてゐるよ」「いつも話しを聞いてくれてありがとう」「私はここにいてよかつたんだ」

とです。今でもわからないことばかりですが、色々なモノの見方や考え方を知ることができ、

そうしたことにおもしろさを感じます。

新しいことへの挑戦はとてもパワーがいり、その道中はとてもしんどいです。仕事を続けている限りその繰り返しだと思います。しかし新しい環境に身を置き、新たにに向かうからこそ自分の幅を広げられるということを実感した1年でもありました。

今、ある利用者さん（以下Mさんとします）の自立生活をつくっていくため試行錯誤しています。生活の基盤はまだ実家ですが、他事業所の人手不足のため派遣が困難となり、エゼルからも1名出して一緒に支援しながら何とか生活を支えています（障害が重く、ヘルパーの2人派遣が認められている方です）。他事業所のヘルパーと組むことは自分たちの支援のあり方について改めて考える機会になりました。

入浴介助を一緒に行つた時のことです。動き

が早く、手際よく準備を進めていくヘルパーさんの様子を見て、自分たちに欠けている部分であります。

大切にしてきた本人さんを中心とした支援をしつかりと貫いていきたいと思いました。

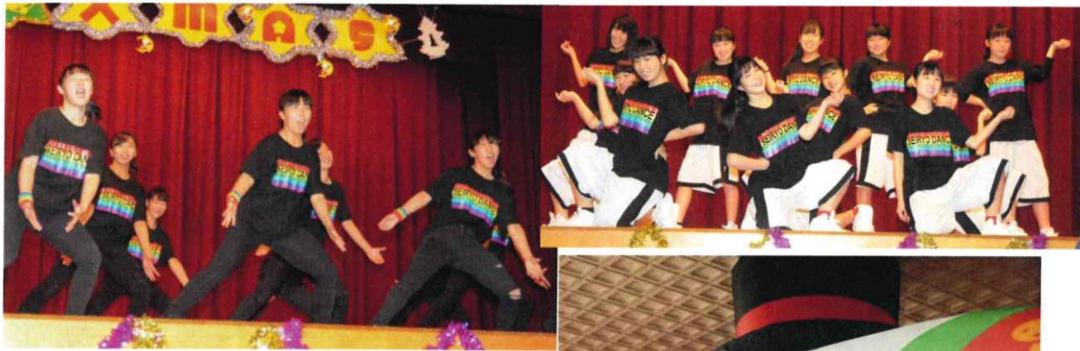
今回のように、他を知るからこそ自分たちの支援について改めて考え方直すというこという言葉ではなく、「〇分だからもういいよ」という言葉だと入浴を終わらせようとする様子に、Mさんとお風呂に入りにきたのではなくあくまでだね」と入浴を終わらせようとする様子に、「Mさん」とお風呂に入りにきたのではなくあくまで

「入浴介助」をしにきているんだなという印象を受けました。これは単に事業所やヘルパー個人の問題ではなく、入浴介助の時間が1時間しか認められていない計画そのものにも問題があると思いますし、居宅介護という短時間の刻んだ支援の中で行ってきた結果だと思います。しかし、こういったことは他事業所と組んで入らなければわからなかつたし、感じなかつたことで



2017クリスマス会

11月23日(木・祝) 北区役所講堂でクリスマス会を開催しました。
今年は名古屋市立西陵高等学校ダンス部のパワー溢れるパフォーマンスで幕開けです。



クリスマス会スタート!!
開会宣言(小林良正さん)



ウィルのお菓子の紹介
(織部未来さん 原あゆみさん)



イオン・ワンダーシティサンタさんから
プレゼントをいただきました

当日ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。(順不同・敬称略)

土田 京香 河合 尚武 青木 政治 桑原 諸彰 勝野 観月 水谷 友香 加藤 英樹 鬼頭 優菜
藤井 香帆 楠村 ゆき 藤本 由紀子 張 軍 江川 美咲 安田 有允子 犬飼 百花 松本 浩希
伊藤 翔磨 井上 祐子 磯部 常光 長谷川 ぱんだ(司会者) 長谷川 友子・伴 舞子(カメラマン)

(7)



Ritz(リツ)

今年も楽しい演奏
ありがとう♪



ご寄付・ご支援いただいた皆様 (順不同)

イオンワンダーシティ様

株東海電気システム

代表取締役会長 増田修様

株力ミヤマ印刷様

G Tソリューション様

高橋会計事務所様

有能幸商会様

オートサービス名古屋様

三井住友海上火災保険様

愛知支部一宮支店様

日新火災海上保険様

東海第一事業部営業第2課様

愛知銀行 小田井支店様

大垣共立銀行 小田井支店様

中小田井郵便局様



新年あけまして

おめでとうございます

特定非営利活動法人コンビニの会 理事
社会福祉法人エゼル福祉会 評議員

宮川 優子

● 新しい年の初めに ●

読者の皆様 新年あけましておめでとうございます。年末の年賀状のコマーシャルでしきりに「平成三十年」と連呼していましたね。来年で平成が終わることも決まり、歳月の速さに感慨深いものがあります。コンビニの会の活動が始まつてから二十年を過ぎ、来年には新施設がスタートする予定です。読者の皆様に会報を通じて支援願うことも増えると思いますが引き続き力を貸してください。

● 障害者を取り巻く社会の変化 ●

脳性マヒの息子は平成元年に生まれました。二十八歳になりましたが身体の緊張と不随意運動が激しく、体重が二十キロないほどの重度心身障害者です。障害が判明したときは将来への不安がいっぱいでしたが休まず通所施設に通い、



学校に看護師が常駐するようになつたおかげで会話（しゃべれませんが）を楽しみにしている様子を見ると、とても人間らしく育つてよかつたと思ひます。

振り返つてみると、港養護学校へ入学した頃は、卒業後の厳しさについて先輩のお母さん方から聞きました。ただ、幸いなこ

とに将来を考える中 費制度が始まり卒業後の進路に困ることはなくなりましたし、

で守られ、息子は平成の次の元号を生きることになります。

このような社会の変化の背景には何があるのでしょうか。多くの人が高齢家族の介護を経験することが多くなり、障害者やその家族へのまなざしが温かくなっているように感じます。また、客観的な統計データを見ると暴力事件、武力衝突、テロなどは明らかに減少しているそうです。

安心できる社会、安全な国家でなければ障害者は生きることはできません。未来はそんなに暗いものではないと感じながら今年も暮らしていこうと思います。

● エゼル福祉会では ●

家族の立場からはいろいろな福祉サービスが選べるようになりうれしい限りです。一方、福

祉事業者の役員としての立場からは本当に運営

は難しいと感じることが多くなりました。ほん

やりしていると市場経済から弾き飛ばされ、

どれだけ素晴らしい介助や介護ができていても

事業の継続ができなくなるケースがあるからで

す。契約制度の中では選ばれる福祉サービスの

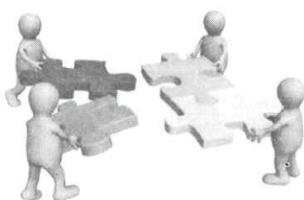
提供は自明の理ですが、さらに社会に向かつて

アピールすることも不可欠のように考えます。

エゼル福祉会は幸いにも財務も人材の確保でも、

うまく回っているのは大川理事長をはじめとする職員の努力の賜物だと思います。

さて、会報でも繰り返し人材の確保と育成についての課題をお知らせしてきました。ご心配をおかけしましたが採用の充実と離職者の減少によって来年の新施設にむけての人材が整つてきました。また、人事委員会によつて管理職にふさわしい人材の発掘をしました。四月からは新しい利用者を受け入れることが決まり、新施設の準備が本格的に始まります。これに伴い人事異動の予定があります。利用者からは慣れ親しんだ職員との安定した関係が築けているのにわざわざ異動させることはないだろうという意見があるとは思います。職員のスキルアップのためにも若いうちに色々な立場を経験することがプラスになります。長い目でみてご理解ください。



© Can Stock Photo

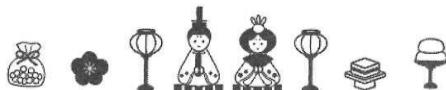
《活動状況》

11月

- 1日 介護記録研修 (溝口・坪内)
 3日 WILL 祝日開所
 4日 防災初動対応訓練
 5日 ヘルパー学習会
 6.7日 相談支援初任者研修 (坪内)
 10日 事業所連絡会議 (榎原)
 10日 インフルエンザ予防接種
 11日 山田地区会館祭り (増田・北島)
 13日 対人援護技術基礎研修 (木村・有満・浅野・久野・伊藤・峯)
 14日 理事会
 15日 管理職試験
 16日 W I L L 親の会
 17日 コミュニケーション研修 (佐藤・馬渕・北島・山下)
 17日 利用者部会福岡 (原・有満)
 21日 ケアマネジメント研修 (有満)
 21日 会報発送
 23日 クリスマス会 北区役所
 25日 評議員会
 28日 自立支援協議会相談支援部会 (寺沢)
 30日 廣瀬先生ケースワーク会議

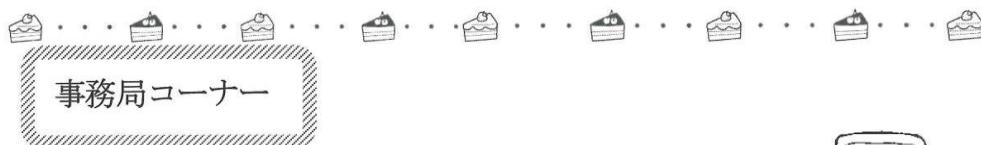
12月

- 1日 新任職員研修 (伊藤・山下)
 3日 ヘルパー学習会
 5日 行動援護従事者研修 (馬渕)
 5日 会報会議
 9日 全職員研修
 12日 ケアマネジメント研修 (有満)
 13日 会計研修 (榎原・溝口・野村・水谷)
 14日 同朋大学訪問 (溝口・佐藤)
 15日 コミュニケーション研修 (佐藤・馬渕・北島・山下)
 19.20日 サービス管理責任者研修 (大西)
 22日 生活支援部利用者総括会議
 26日 自立支援協議会相談支援部会 (寺沢)
 27日 生活支援部総括会議
 28日 通所部総括会議
 29日 ウイル大掃除



クリスマス会収支報告 2017/11/23

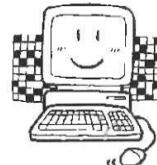
| 収入 | | | 支出 | | |
|---|-------|---------|----------------------|--|---------|
| 明細 | 寄付のお品 | 現金 | 明細 | 寄付のお品 | 現金 |
| 1 クリスマスチケット売り上げ | 115名様 | 72,400 | 1 会場費 | 北区役所講堂 | 15,800 |
| 2 寄付金 | | | 2 舞台・演出備品 | | 29,515 |
| ご支援いただいた企業様 | 9社 | 120,000 | 3 出演・謝礼費等 | | 84,823 |
| ご支援いただいた個人様 | 1名 | 1,200 | 4 その他・雑費 | | 83,096 |
| 役員 | 10名 | 58,000 | 景品購入 | | |
| お土産お菓子・保険・ボランティア懇親会等 | | | お土産お菓子・保険・ボランティア懇親会等 | | |
| 3 寄付のお品 | | | 5 抽選の品 | 特別賞 ステーキ肉 1等 商品券 2等 ハム詰め合わせ 3等 お米 4等 日用品セット 5等 カップ麺 BOXティッシュ | |
| ご支援いただいた企業様 | 5社 | | 6 参加者様へのお飲み物 | コーヒー お茶 | |
| 商品券 ハム詰め合わせ お米 カップ麺 BOXティッシュ サンタイレットベーバー ⁺ タオル 貯金箱 キャラクターせんす ハンディーモップ マグカップ・ガラスコップ コーヒー お茶 | | | | | |
| 合計 | | 251,600 | 合計 | | 213,234 |
| ※差引残高は公益事業会計に織入します。 | | | 差引 | 38,366 | |



事務局コーナー

「ご協力ありがとうございました」

11月～12月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

S・I 伊佐地 凌

(クリスマス会 寄付者)

神谷佳広 松原伸二 宮川優子

村田昌史 堀江良子 山田肥名子

大嶋千波 戸水純江 大島伊久代

伊藤勤也 丹羽恵子

(WILL)

山田美治

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 水野裕哉

辻本道子 桑原諸彰 黒田隆広

林 和子 高塚朱美 藤本菜見

堀 浩二 大瀧宥乃 楠村ゆき

石原まち 水谷友香 辻本有沙

寺西 剛 星野恭兵 勝野観月

奥村 修 辻本沙利菜 藤本由紀子

榎原さち 土田京加 酒井まみ子

青木政治 鬼頭優菜 茂手木利典

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

高田真由美 伊藤夢子 林 勇輝

本田 真 浅井宏紀 棚瀬さおり

藤本由紀子 辻本道子

(WILL)

中部善意銀行 榎光洋

名古屋食肉三水会協同組合

㈱オールドリバーア

安永麻里 水野香織 木下楓奈子

中谷暢宏 石田尚己 浅井宏紀

宮田まどか 朝比奈幸生

西口八重子 井上祐子

(WILL)

武部 文 須田たみ子

伊藤篤志

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 半田素子





昨年行われたクリスマス会に多くの皆様ご参加いただき誠にありがとうございました。
本年も皆様にとりまして輝かしい一年になりますことを心からお祈り申し上げます。

銀行口座

三菱東京 UFJ 銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108
特定非営利活動法人 コンビニの会
郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。
障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

U R L <http://ezeru.sakura.ne.jp/>
E-mail convini@beach.ocn.ne.jp

コンビニの会

理 事 宮川 優子